

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	71200556		
法人名	医療法人 日の出		
事業所名	グループホーム ひだまり		
所在地	福岡市西区野方1丁目16-28		
自己評価作成日	平成23年3月25日	評価結果確定日	平成23年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>30代～60代のスタッフで、毎日和気あいあいとした雰囲気の中介護させていただいています。入居されている方にも、笑顔が絶えることなく家庭的な雰囲気で生活して頂けるように努めています。入浴は週2～3回ですが、入浴日ではない日は白癬予防のために毎回足浴を実施しており、少しでも快適に過ごして頂けるように取り組んでいます。</p>
--

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>長年、地域医療に取り組む法人が10年前に開設した事業所で、家庭的な雰囲気を重視し1ユニットならではの細やかな支援に取り組んでいる。家族には「面会が一番の良薬」と積極的に面会や外出を働きかけ、利用者の殆どが家族支援にてかかりつけ医を継続受診している。意外にも併設する病院や老健等からの利用はなく、在宅や他の病院からの利用が多い。これは法人全体で地域交流や研修体制に取り組む一方、「生活」としての認識が確立されており、開設以来継続されているホーム内での調理等、運営にも反映されていた。昨年度より職員の定着率も上がっており、来年には新設移転も計画されている。今後とも地域、行政を巻き込んだ「暮らしの場」としての支援の展開が期待できる事業所である。</p>
---

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

### 自己評価および外部評価票

ユニット名:

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所など職員の目につく所に運営理念を掲げ、職員はその理念を意識して業務にあたっている。	開設時に、ホーム独自の理念を作り上げている。地域との連携や家庭的な環境の中で笑顔を絶やさず、ゆったりと共に暮らす生活支援等を理念に掲げ、日々のケアを通じて実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館での活動等に参加し交流を深めている。	併設する老健の夏祭り等、法人全体で地域交流に取り組んでいる。また、参加可能な利用者は公民館で行われるサロン活動に参加し、地域住民と花見を楽しむなどの事例も見られた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会役員や民生委員に事業所の地域での役割を説明し、地域高齢者の援助が出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において出された意見はミーティングにおいて報告し、事業所に質の向上のため話し合いを行っている。	出席可能な利用者と共に地域の公民館に赴き、民生委員や自治会役員を交えて実施している。内容は、ホーム行事や利用者の状況報告や地域行事等の情報交換、非常災害対策や各施設の種類や概要の紹介等を行っている。	現在の参加者に加えて、行政職員や地域包括支援センター、家族にも参加を呼びかけ、定期的(2ヶ月毎)な開催に向けての取組みを期待します。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護のしくみやわからない事項など担当者に相談して助言を頂いている。	生活保護受給利用者への支援や日常的なサービスについての質問や助言等を通じて連携をとっている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在、直接的な身体拘束は行っていない。玄関ドアに関してはオートロック式の玄関になっている。その日の職員配置等考慮し、時間帯を設け解錠している。火災非常時等は自動解錠される。	法人の全体研修への参加や、日常的なケアの中で、施錠に限らず、スピーチロックや行動制限等、身体拘束にあたるか否かについても事例を通じて話し合う機会を設け、職員全体で啓発する機会を確保している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などを通じて学ぶ機会を得ている。虐待に関する知識を高め、防止に努めている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修などで得た知識を、資料を参考にし職員間で話し合いをしている。	外部研修への参加と同時に、法人全体研修やホーム内での勉強会を通じて、制度の理解と普及に努めている。	同制度は、包括支援センターにも窓口が設置されており、運営推進会議等においての直接的な情報提供は利用者、家族、地域住民や職員にとっても有益な制度周知の機会となることと思います。今後の取組みを期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時及び解約時、書類を用いて説明を行い理解して頂いている。退去時は、情報を提供し退去先を紹介するなどの支援を行っている。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見・相談などは介護記録又は相談受付簿に記載し、対応策を考え実施している。	利用者本人との日常的なかかわりや面会時、家族会等を利用して、利用者や家族の意見や思いの表出に努めている。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や職員会議で検討した後に回答する体制をとっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、意見・要望を聞く体制をとっており、意見や提案を業務に反映させている。	毎月の職員会議や管理者との日常的な会話の中で、意見やアイデアを提案しやすい雰囲気作り配慮し、検討の上、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会へ積極的に参加し、知識や技術を習得するとともに、同業者との交流を通じて刺激を受けることにより意欲の向上に努めている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたって、性別や年齢を理由に採用対象から除外することはない。現在、30代から60代までと職員の年齢層は幅広く、知識や経験、資質などを考慮して働いている。	年齢や性別、資格や経験の有無等の制限は設けず、意欲や適性等を重視している。就職後は、食事代の補助や育児休暇の取得等、公私共に自己実現できるように配慮している。管理者、職員ともにコミュニケーションをとりながら、働きやすい職場環境づくりに努めており、昨年からは職員の定着率もあがっている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修会などを通じて人権教育に取り組み、人権尊重を常に意識し業務にあっている。	全職員を出席対象とする法人研修に位置付け、高齢者虐待防止や人権擁護等、幅広いテーマにおいての人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修会などを通じてや、勉強会などで同法人内の職員との交流を図り情報交換を行っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	グループホームの内容を分かりやすく説明し御理解頂き、本人の話を十分に聞き、思いや考え、生活歴を把握して入居してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてからの状態を家族へ報告し、要望を聞き、家族が安心できる環境を作り、信頼関係が築けるよう努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設見学や入居申し込みに来られた時に、本人や家族に要望を聞き、必要に応じて他のサービス利用も含めて話をしている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生経験を積まれてきた先輩として尊敬の念を持ち、お互いに知識を共有しながら、支え合う関係作りに努めている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と連絡調整を行い、情報を共有し、家族の現状や考えを理解した上で、それぞれ可能なケアを行う関係を築いている。		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも面会に来やすいような環境・雰囲気作りを心がけ、馴染みの関係が継続できるように努めている。	可能な限り利用者が家族や親族、友人・知人等、馴染みの人達による面会が多くなるように支援している。契約時から「面会が何よりの良薬」と呼びかけ、年に1度は家族会を開催し、多くの家族と利用者の懇親や交流に取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の良好な関係を保つために、時には職員が仲介役に入り話を聞くように努めている。また、孤立しないように声掛けを行い、交流を深めていけるように支援している。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても面会に行ったり、家族に現在の状況を聞き、他のサービス利用や精神的サポートに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の願いや意向を尊重し、話し合いながら希望に沿う支援を行っている。	契約時の聞き取りや計画の見直し時にアセスメントをまとめ記録している。入居後の意向については、日常の会話や様子を詳細に支援経過に記録し、介護計画書に反映させた上で支援している。	利用者の思いを汲み取る事が難しくなっているようです。利用者の過去・現在の記録を整理すると「思い」をさぐる手がかりになる要素があるものと思われる。利用者の「思い」が叶う「未来」に向けての取組みを期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴や趣味、特技などの情報を本人や家族から収集して、それをもとに経験を活かした生活を過ごしてもらえるように支援している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々接する中で把握出来たことは、管理日誌やカルテに記載し、情報を共有している。また、ミーティングで話し合い個々に応じたケアをするように努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やその家族との会話の中から課題を探り、ミーティングで話し合い介護計画を立案している。	毎月のカフェを実施し、全ての利用者についての情報交換や確認を行い記録している。モニタリング・評価・見直しは、半年毎に心身状況に変化が生じた際はその都度対応し、関係者で話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌や個別の介護記録帳に経過記録を残し生活状況を把握して、職員間で情報を共有しながら介護実践や計画の見直しにつなげている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望には可能な限り応じており、その時々状況に応じて柔軟に対応するように努めている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週火曜日にハモニカ演奏のボランティア来居している。また、近隣保育園の園児との交流や、地域ふれあいサロンへ入居者とともに参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望に沿う形で入居者の病状にあった協力医療機関や提携医の受診を受けてもらっている。場合により、以前からのかかりつけ医を受療することもある。	契約時に利用者・家族が、主治医を選択している。利用者の殆どが家族支援によって、かかりつけ医を継続受診している。ホーム内でも法人医療機関による緊急対応や、地域の認知症の専門医とも連携をとりながら適切に支援している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設診療所や介護老人保健施設の看護師と相談しながら、日常の健康管理を行っている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時は、お見舞いを兼ねて、その都度現在の状況把握に努めている。また、家族や病院関係者と情報交換を行いながら早期退院できるように配慮している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階に職員間で話し合いを行い、かかりつけ医に意見を求め、本人・家族と話し合いの場をもち、全員で方針を共有できるように努めている。	胃ろうや人工透析等の場合、他の病院や施設への転院等の可能性についても予め説明し同意を得た上で契約している。心身状況に応じて段階的に関係者で方針や情報を共有し、支援している。この過程を経て、本人・家族の意向にそった看取り支援事例が見られた。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会や自己発生時の緊急対応マニュアルを作成し様々な緊急事態への対応を学習している。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、年2回防災訓練を行い、全職員消火器、避難誘導の流れ、各関係機関との連絡など、火災時の体制を整備している。地域の消防署、自治会に有事の際の応援協力をお願いしている。	年2回ホーム単独で夜間想定訓練や避難訓練が行われている。道を挟んで消防署があり、災害時の応援体制等については訓練時や、運営推進会議でも働きかけを行っている。また、来年度の新設移転に準じて設備面の充実も計画している。	
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや対応は慎重に行い、プライバシーを損ねないよう心がけている。	言葉づかいや対応については、法人研修や勉強会等を行っている。個人情報に関しても法人全体で規定を設け、情報や記録物等は、事務所やスタッフルームにて管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	談話などから思いや希望を聞き入れ、その都度状況をみながら、出来る限り要望に沿えるように努めている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の気分や状況を考慮して、可能な限り意思を尊重し臨機応変な対応を心掛けている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1回、理容・美容の訪問があり、入居者の希望に応じてカットや髭剃りといったサービスを利用してもらっている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を入居者の状態に合わせて、見た目に考慮した盛り付けをし、工夫している。テーブル拭きや料理の簡単な下準備などは協力してもらっているが、ほとんど職員が食事を作り、片付けしている。	食事を重要な生活活動ととらえ、献立、買物、調理等の三食全てを職員が主となり、可能な限り利用者と協力して行っている。また職員の食事代を助成し、利用者と職員が同じ食事をとれるように配慮しており、調査当日も利用者と同じ昼食を楽しむ様子が伺えた。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食摂取量を記録し、摂取量が少ない場合は個々の状態や好みにあった食事の支援をしている。食欲不振時は、提携医や管理栄養士と相談しながら補助食品を利用する事もある。水分をあまり摂取されない入居者には、水分補給ゼリーなどを使用する事もある。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとり口腔内・義歯洗浄を行っており、最終的に磨き残しなどを職員がチェックしている。又、毎週土曜日訪問歯科が来居して口腔洗浄や義歯の状態をチェックしている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、プライバシーに配慮しながら誘導や観察を行っている。リハビリパンツや尿とりパットの使用は最小限で行うよう取り組んでいる。	介助が必要な利用者毎の排泄パターンを把握し、介護計画書に位置付け、個別に支援している。自立、見守り、声かけ、誘導、二人介助等、それぞれの利用者に応じた自立にむけて支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多く含まれた食品を献立に取り入れ、定期的な水分摂取により便秘予防に努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴時間はおおむね決まっている。入る順番や所要時間は本人の希望に合わせて対応している。便失禁のシャワー浴は適時実施している。	予め入浴時間を設定し、週三回は入浴できるように取り組んでいる。他にもシャワー浴、足浴、二人介助での入浴支援等、本人の意向や心身状況に沿って、利用者の負担を軽減し、気持ちよく清潔保持できるように支援している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握している。入居者によっては、日中活動の場面を多く作る事により安眠する方や、昼寝をいれるなくてはならない方などがあり、個別に対応している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬表をもとに内容把握に努めている。薬の種類や量、服薬時間に変更があった時は、管理日誌とカルテ、口頭での申し送りにて情報伝達している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみ、お茶の葉パック詰め、テーブル拭き、バスバイクなど楽しみを持ってもらっている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候や体調を考慮しながら、近所の散歩にいかれたり、法人内の庭で外気浴されるよう支援している。また、季節ごとのバスバイクに出かけている。	バスバイクを兼ねた花見等、定期的な行楽や外出のほかにも日常的な散歩等、可能な限りは戸外へ出て気分転換できるように支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所が行っている。本人から要望があれば、代わりに買い物したりしている。職員同伴での外出の際は、店頭で自ら金銭の使用をしてもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と自由に電話連絡できるよう支援している。 また、手紙のやり取りについても入居者の希望や書く力に配慮した支援体制をとっている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングが共用空間になっている。テレビ音量や照明に配慮し、季節にあわせた花や飾りの展示をしている。	自然光を取り入れたリビングは明るく、車椅子の移動にも十分な広さがある。キッチンと面しており、日中は自然と皆が集い、会話を楽しみくつろげる空間となっている。また、季節の花や観葉植物をあしらひ、家庭的な雰囲気となるように工夫している。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにおいて、気の合う人同士が会話を楽しんだり、本を読んだり、テレビを観て各自思い思いに過ごしている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みのある家具を持参され、入居者の生活しやすい居住環境を作られるよう支援している。	病院の入院棟を改装した居室は、フローリングの洋室で、クローゼット、洗面所、ベッド等が、整備されている。調度品や家電、観葉植物等を、自宅の様子に近い状況で配置し、利用者の心身状況や生活習慣等を考慮しながら、安全かつ快適に過ごせるように工夫している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所に手すりを設置し、家具の配置には注意し、入居者の行動の妨げにならないように配慮している。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			